資料１

沖縄県で開催する２巡目国スポ・全スポに関する懇話会

＜第１回資料＞

令和6年6月２８日（金）10：00～

会場名　県庁６階第２特別会議室

目　次

０．懇話会について（趣旨･目的、進め方など）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
１．大会の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
２．海邦国体（１巡目）の概要、成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
３．沖縄県の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
４．国スポ改革の取組の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
５．大会の意義や目指す成果のイメージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
６．意見交換・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
７．参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

懇話会について

趣旨及び目的

令和16年の「第88回国民スポーツ大会」及び「第33回全国障害者スポーツ大会」の本県開催に当たり、大会のあり方について多様な分野の皆様からご意見を伺い、大会基本方針に反映させることを目的に開催。

設置の背景

〇47年ぶりの開催となる２巡目国スポは、社会環境の変化に加えて3巡目国スポのあり方に対する議論が活発化している状況に鑑み、関係各界や有識者の意見を踏まえた基本方針としたい。

〇開催前５年の先催県においても、３県で懇話会を開催し基本方針に反映。

懇話会の進め方

スケジュール　※令和6年6月～9月　・計3回予定

第1回 6月	・懇話会の趣旨及び目的　・国民スポーツ大会の概要 ・海邦国体の概要、成果　・社会環境の変化 ・国スポ改革の取り組み状況 ・開催の意義等に関する意見交換
第２回 ８月	・沖縄らしい大会の在り方について ・懇話会意見交換内容の整理
第3回 ９月	・懇話会提言書まとめ

10月	・懇話会提言書手交

提言書のイメージ

第1章　目指す成果と開催の意義

・スポーツ文化の浸透

・地域コミュニティの強化 ・競技力の向上、維持

・健康で心豊かな社会の実現・観光振興・地域振興　など

第2章　沖縄らしい大会のあり方

・県民一体となって取り組む大会

・沖縄の歴史・文化・自然を活かす大会

・次世代の成長に資する大会　など

第3章　取組の方向性

・市町村・関係団体と連携した機運醸成

・企業との連携・競技力向上に向けた具体の取り組み

・経費をおさえる工夫など効率的な開催運営　など

1 大会の概要

(1)目　的

○国民スポーツ大会（国スポ）

大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとするものである。

○全国障害者スポーツ大会（全スポ）

障害のある選手が競技を通じてスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害のある方の社会参加の推進に寄与することを目的としたものである。

1 大会の概要

(2)主　催

○国スポ

公益財団法人日本スポーツ協会、文部科学省、開催地都道府県

○全スポ

公益財団法人日本パラスポーツ協会、文部科学省、開催地都道府県及び区市町村、並びにその他関係団体

(3)開催基準

○開催年

・毎年開催（都道府県持ち回り）

・原則、同一都道府県内の開催

○会場地

・大会の会場地は同一市町村内での開催が原則

・場合によっては、近隣市町村での分散開催、近県施設での開催も可能

1 大会の概要

(4)会　期

〇国スポ　【冬季大会】・12月～2月末　5日以内

【 本大会 】・9月中旬～10月中旬　　11日以内

〇全スポ　国スポ終了後に開催（近年は10月下旬）　　3日間

(5)表　彰

〇国スポ　・都道府県別に、競技得点、参加得点を合計し、競技別、男女総合（天皇杯）女子総合（皇后杯）を競う。

〇全スポ　・都道府県対抗ではなく、競技ごとに競った結果により表彰を行う。

(6)実施競技（国スポ）

	実施競技			
冬季大会	**正式競技（3競技）**			
	スケート	アイスホッケー	スキー	
本大会	**正式競技（下記38競技中、実施は37競技）**			
	陸上競技	水泳	サッカー	テニス
	ローイング	ホッケー	ボクシング	バレーボール
	体操	バスケットボール	レスリング	セーリング
	ウエイトリフティング	ハンドボール	自転車	ソフトテニス
	卓球	軟式野球	相撲	馬術
	フェンシング	柔道	ソフトボール	バドミントン
	弓道	ライフル競技	剣道	ラグビーフットボール
	スポーツクライミング	カヌー	アーチェリー	空手道
	柔剣道	クレー射撃	なぎなた	ボウリング
	ゴルフ	トライアスロン		※ボクシングとクレー射撃は隔年開催
その他	**特別競技（1競技）**	**公開競技**	**デモンストレーションスポーツ**	
	高等学校野球	綱引・ゲートボール等 （日本スポーツ協会加盟競技）	ペタンク・ドッジボール等 （開催県スポーツ協会加盟競技）	

(7)実施競技（全スポ）

	実施競技		
正式競技 （個人・７競技）	陸上競技（身・知）	水泳（身・知）	アーチェリー（身）
	卓球（身・知・精）	フライングディスク（身・知）	ボッチャ（身）
	ボウリング（知）		
正式競技 （団体・7競技）	バスケットボール（知）	車いすバスケットボール（身）	ソフトボール（知）
	グラウンドソフトボール（身）	フットソフトボール	バレーボール（身・知・精）
	サッカー（知）		
オープン競技 （各自治体で決定）	卓球バレー（身・知・精）	車いすテニス（身）	ゲートボール（身）
	グランド・ゴルフ（身・知・精）	車いすダンス（身）	ブラインドテニス（身）
	スポーツウェルネス吹矢（身・知・精）	ハンドアーチェリー（身）	など

(8)大会規模（直近の鹿児島県）

○燃ゆる感動 かごしま国体（国スポ）

・期　　日：会期前　令和5年9月16日（土）～9月24日（日）
　　本大会　令和5年10月7日（土）～10月17日（火）

・実施競技数：正式競技37、特別競技1、公開競技5，デモンストレーション競技36

全43市町村で開催
※デモスポのみ16市町村

・参加者数　：総合開会式19,894人、総合閉会式12,147人、競技会616,135人
（延べ）　　合計653,635人（選手・監督、大会関係者、観覧者等の合計）

○燃ゆる感動 かごしま大会（全スポ）

・期　　日：令和5年10月28日（土）～10月30日（月）

・実施競技数：正式競技14、オープン競技３（7市で開催）

・参加者数　：開会式15,524人、閉会式15,728人、競技会6,150人
（延べ）　　合計90,659人（選手・監督、大会関係者、観覧者等の合計）

（出典：かごしま国体・かごしま大会報告書）

(9) 2巡目大会の開催状況

回	年	開催地	地区	総合優勝	備考	全スポ回数
43	S63(1988)	京都府	中	京都府		
44	H元(1989)	北海道	東	北海道		
45	H2(1990)	福岡県	西	福岡県		
46	H3(1991)	石川県	中	石川県		
47	H4(1992)	山形県	東	山形県		
48	H5(1993)	香川・徳島	西	香川県		
49	H6(1994)	愛知県	中	愛知県		
50	H7(1995)	福島県	東	福島県		
51	H8(1996)	広島県	西	広島県		
52	H9(1997)	大阪府	中	大阪府		
53	H10(1998)	神奈川県	東	神奈川県		
54	H11(1999)	熊本県	西	熊本県		
55	H12(2000)	富山県	中	富山県		
56	H13(2001)	宮城県	東	宮城県		1
57	H14(2002)	高知県	西	東京都		2
58	H15(2003)	静岡県	中	静岡県		3
59	H16(2004)	埼玉県	東	埼玉県		4
60	H17(2005)	岡山県	西	岡山県		5
61	H18(2006)	兵庫県	中	兵庫県		6
62	H19(2007)	秋田県	東	秋田県		7
63	H20(2008)	大分県	西	大分県		8
64	H21(2009)	新潟県	中	新潟県		9
65	H22(2010)	千葉県	東	千葉県		10
66	H23(2011)	山口県	西	山口県		11
67	H24(2012)	岐阜県	中	岐阜県		12
68	H25(2013)	東京都	東	東京都		13
69	H26(2014)	長崎県	西	長崎県		14
70	H27(2015)	和歌山県	中	和歌山県		15
71	H28(2016)	岩手県	東	東京都		16
72	H29(2017)	愛媛県	西	東京都		17
73	H30(2018)	福井県	中	福井県		18
74	R元(2019)	茨城県	東	茨城県		19
75	R2(2020)	鹿児島県	西		延期 R2→R5	20 (欠番)
76	R3(2021)	三重県	中		中止	21 (欠番)
77	R4(2022)	栃木県	東	東京都		22
特別	R5(2023)	鹿児島県	西	東京都		特別
78	R6(2024)	佐賀県	西		国スポに名称変更	23
79	R7(2025)	滋賀県	中			24
80	R8(2026)	青森県	東			25
81	R9(2027)	宮崎県	西			26
82	R10(2028)	長野県	中			27
83	R11(2029)	群馬県	東			28
84	R12(2030)	島根県	西			29
85	R13(2031)	奈良県	中			30
86	R14(2032)	山梨県	東			31
87	R15(2033)	鳥取県	西			32
88	**R16(2034)**	**沖縄県**	**西**			**33**
89	R17(2035)	三重県	西			

（10）予　　算

【県予算：他県の事例によるもの（複数年での全体予算）】

（単位：億円）

費　目	栃木県（2022） ※冬季大会1.6億含む	鹿児島（2023）
運営費（開閉会式典･選手役員輸送･行幸啓関連費用等）	176.6	101
競技力向上経費（選手及び指導者育成、遠征費用等）		29
施設整備費（新設、仮設、老朽化対策、バリアフリー対応等）	652.2	132
総　額	829	267

※鹿児島県の経費のうちR5分は予算ベース

【自治体の負担状況】

・大会準備及び運営のための経費の収入源は次のとおりである。

国補助金、日本スポーツ協会交付金、開催県（会場地市町村含む）負担金または準備金

民間からの寄付や募金、スポンサー料、入場料等

※国及び日本スポーツ協会からの補助額は限られており、開催県（会場地市町村含む）の負担が大きい

・各自治体の財政状況が厳しい中、競技開催地である市町村においても相応の負担が必要となる。

(11)大会開催までのスケジュール（予定）

11年前	10年前	9年～6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開催年
R5年度	R6年度	R7～R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度
開催内々定 ・開催要望書の提出（内々定）	・準備委員会の設立 ・懇話会の開催（3回）	・競技会場地の選定	・中央競技団体による競技会場確認	**開催内定** ・開催申請書の提出	**開催決定** ・会場地総合視察 （日本スポーツ協会・文部科学省）	・実行委員会の設立	国スポリハーサル大会　開催	**大会開催** 全スポリハーサル大会　開催

2 海邦国体の概要

(1)開催概要　第42回国民体育大会「海邦国体」

スローガン	**きらめく太陽 ひろがる友情**
会期	夏季大会：昭和62年9月20日（日）～23日（水） 秋季大会：昭和62年10月25日（日）～30日（金）
競技数	37競技
参加者数 （監督･選手･本部役員）	28,374人
開閉会式	夏季大会：奥武山水泳プール 秋季大会：県総合運動公園
男女総合成績（天皇杯）	沖縄県（１）、東京都（２）、大阪府（３）
女子総合成績（皇后杯）	沖縄県（１）、愛知県（２）、東京都（３）

2 海邦国体の概要

(2)基本方針

第42回国民体育大会は、南国の輝く太陽、紺碧の海、亜熱帯の鮮烈な自然と絢爛たる伝統文化を創造した"おきなわ〟の雄渾なたましいが一体となり、守礼の邦をたたえ、平和と協調への誓いをこめて、国体の本旨に沿い開催する。

この大会は、全国一巡目のしめくくりとともに、復帰15周年の記念祭典として意義づけ、これを契機に県民の健康増進と体力向上を図り、強靭な肉体に宿る明朗、不屈の精神をもって活力ある郷土づくりを目指す。

2 海邦国体の概要

(3)実施目標

（１）県･市町村･関係機関及び関係団体の密接な連携のもとに、県民を挙げて大会運営を成功させる態勢を整える。

（２）大会競技は、可能な限り県内各地に分散して行い、競技施設は大会運営に遺憾のないよう整備するとともに、広く県民が活用できるように配慮する。

（３）県民総スポーツ運動を推進し、県民の健康増進、体力向上に資するとともに、選手及び指導者を育成強化し、本県スポーツ水準の飛躍的向上を図る。

（４）全県民の参加を得て、おもいやりのある豊かな心を育て、公徳心を高めるよう広く県民運動を展開する。

（５）全国の選手団を温かく迎え、友情の輪を広げ、本県特有の伝統文化と恵まれた自然を紹介し、観光の振興に寄与する。

2 海邦国体の概要

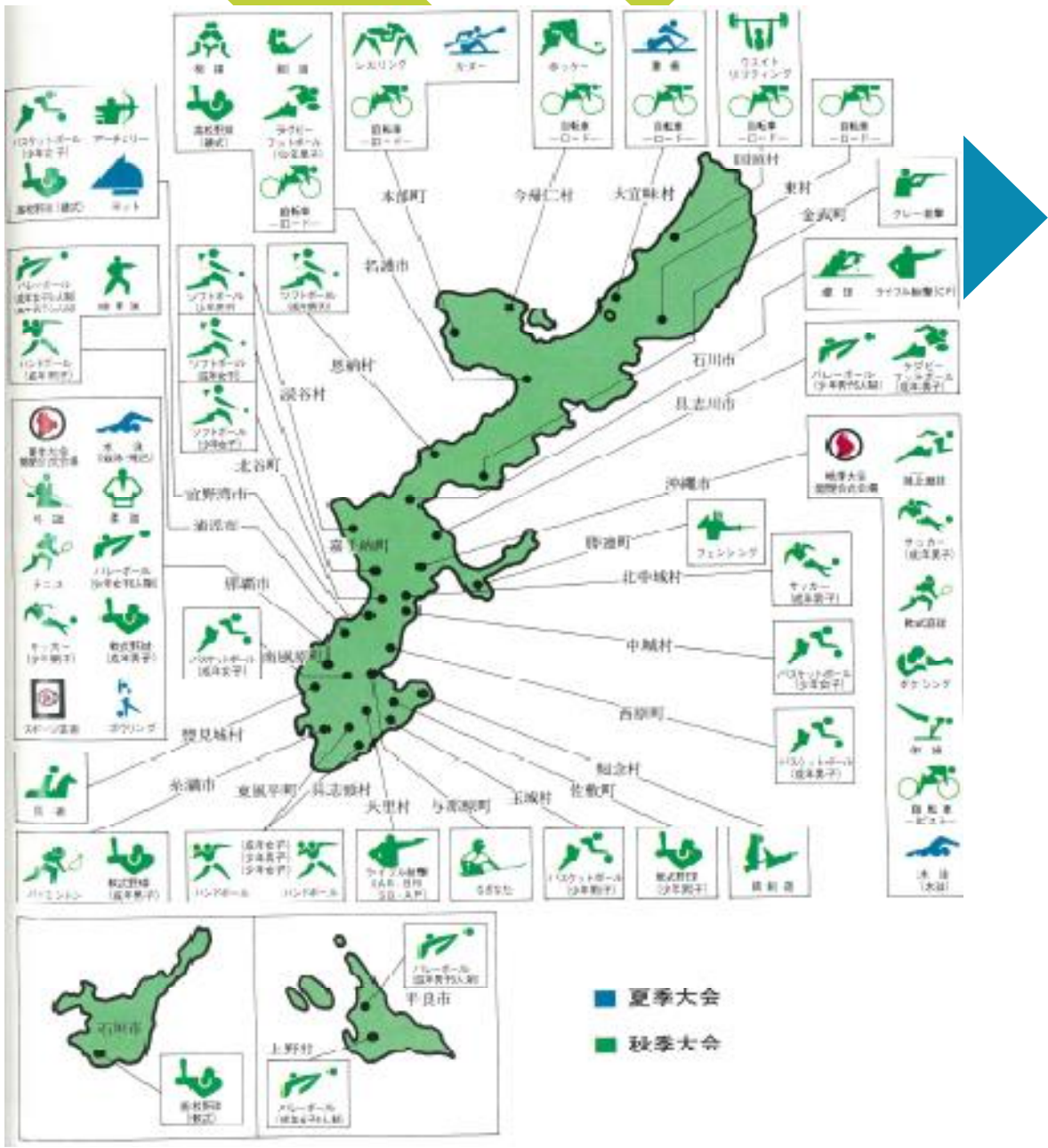
(4)競技会場一覧

53市町村中34市町村で開催

（72会場31競技）

シンボルマーク

大会マスコット
（クイクイ）



2 海邦国体の成果

(1)スポーツの普及・競技力向上

☞ 県民のスポーツへの関心の高まりに一定の効果

→海邦国体での県勢の天皇杯・皇后杯の獲得は当時のマスコミに大々的に報じられ、本県選手団の活躍は県民のスポーツへの関心と意欲を大きく高めた。

☞ 体育協会、競技団体等のスポーツを振興する組織の充実、指導者の充実

→県に設置した「競技力向上対策本部」においては、指導者育成、選手強化、組織強化を計画的に推進。その後の中長期にわたる競技力強化のモデルとなった。

☞ 競技の多様化、競技人口の増加

→未普及競技の活動促進（小学生年代へのスポーツ教室、測定会など）により、県民の間に多様な競技への関心と参画を促す契機となった。

2 海邦国体の成果

(2)県民運動としての盛り上がり

取り組み	概　要
推進体制の整備	・海邦国体県民運動推進協議会を設置 ・海邦国体県民運動推進委員の設置（5,000人余り） ・キャッチフレーズ「一人一役　万人（うまんちゅ）が主役」
県民運動推進活動費の助成	53全市町村へ交付
県民運動大会の開催	・パレードの開催、県民運動推進大会の開催 ・県民運動キャラバン
海邦国体記念植樹	県総合運動公園に琉球松の植樹
国体音頭講習会	県内7か所、延べ2,000人が参加
標語・ポスターの募集	県内の小中高生、在住者を対象

2 海邦国体の成果

(3)施設整備の進展・インフラ整備

○競技会場として使用した施設は、夏季大会、秋季大会を合わせて80会場

○このうち、昭和58年以降に**新設したものが41施設**、改修したものが2施設となっており、国体開催をきっかけに大会施設の整備が進展

【施設整備状況】

区分	新設	改修	既設	計
県	11	2	20	33
市町村	30	0	15	45
その他	0	0	2	2
計	41	2	37	80

※その他、沖縄自動車道をはじめとする国体関連施設についても第2次沖縄振興開発計画の中に重点施策として位置づけ社会インフラ整備が行われた

2 海邦国体の成果

(4)経済波及効果

〇夏季大会のおよび秋季大会の宿泊者数は39,849人。

〇那覇空港、那覇バスターミナル、県総合運動公園等に総合案内所を設置

〇郷土物産を広く全国に紹介するため、開閉会式会場に売店を設置（夏季大会：36店舗、秋季大会64店舗）

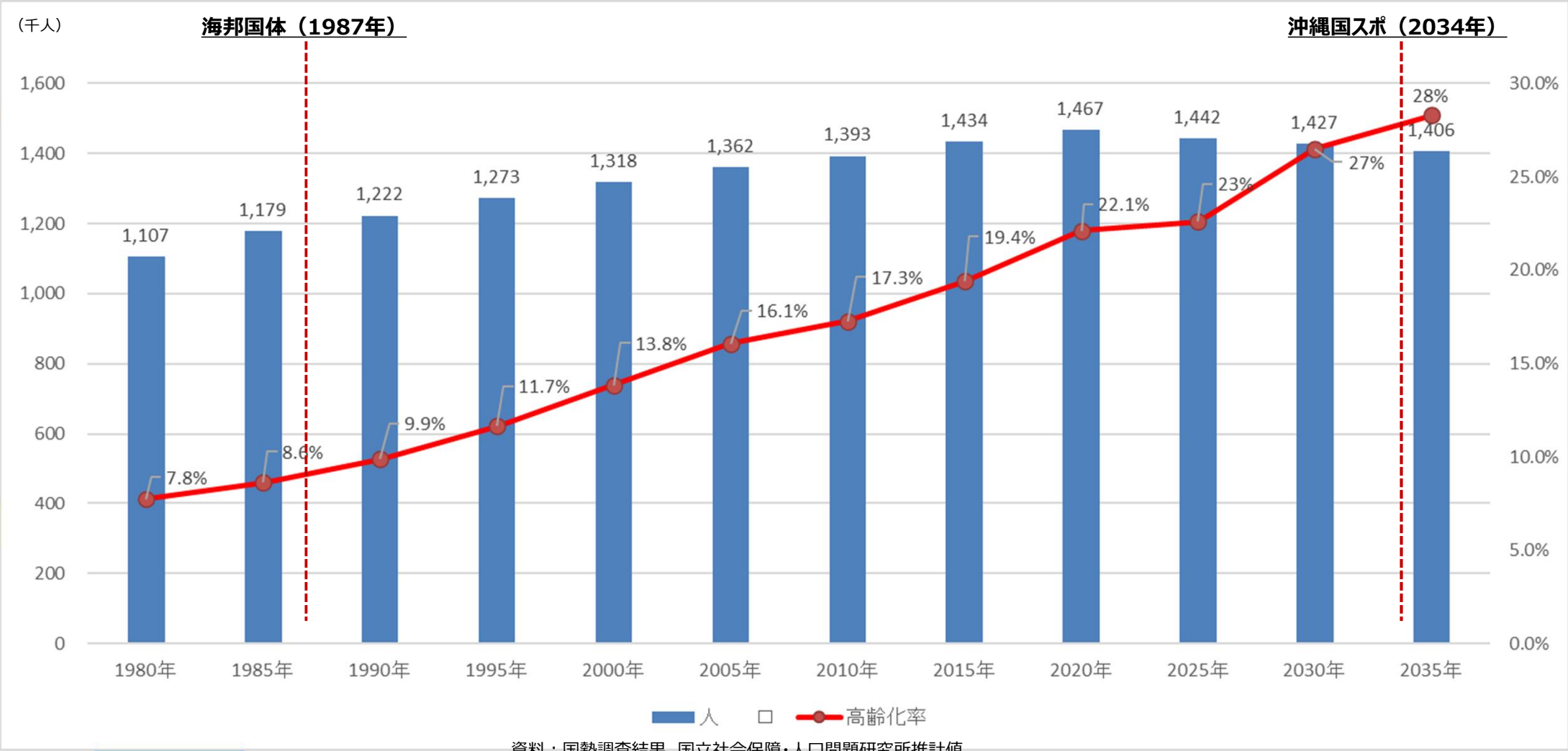
〇宿泊、移動、物販、食事など、幅広い経済波及効果が得られたものと推察（数値は計算されていない）

【海邦国体時の宿泊者数】

区分	選手 監督	競技 役員	都道府県 本部役員	大会 役員	視察員	報道員	宮内庁	招待者	その他	計
夏季大会	5,176	439	408	28	382	565	76	81	67	7,221
秋季大会	23,629	2,483	1,063	90	2,167	1,047	246	1146	802	32,628
計	28,805	2,922	1,471	118	2,549	1,612	322	1,227	869	39,849

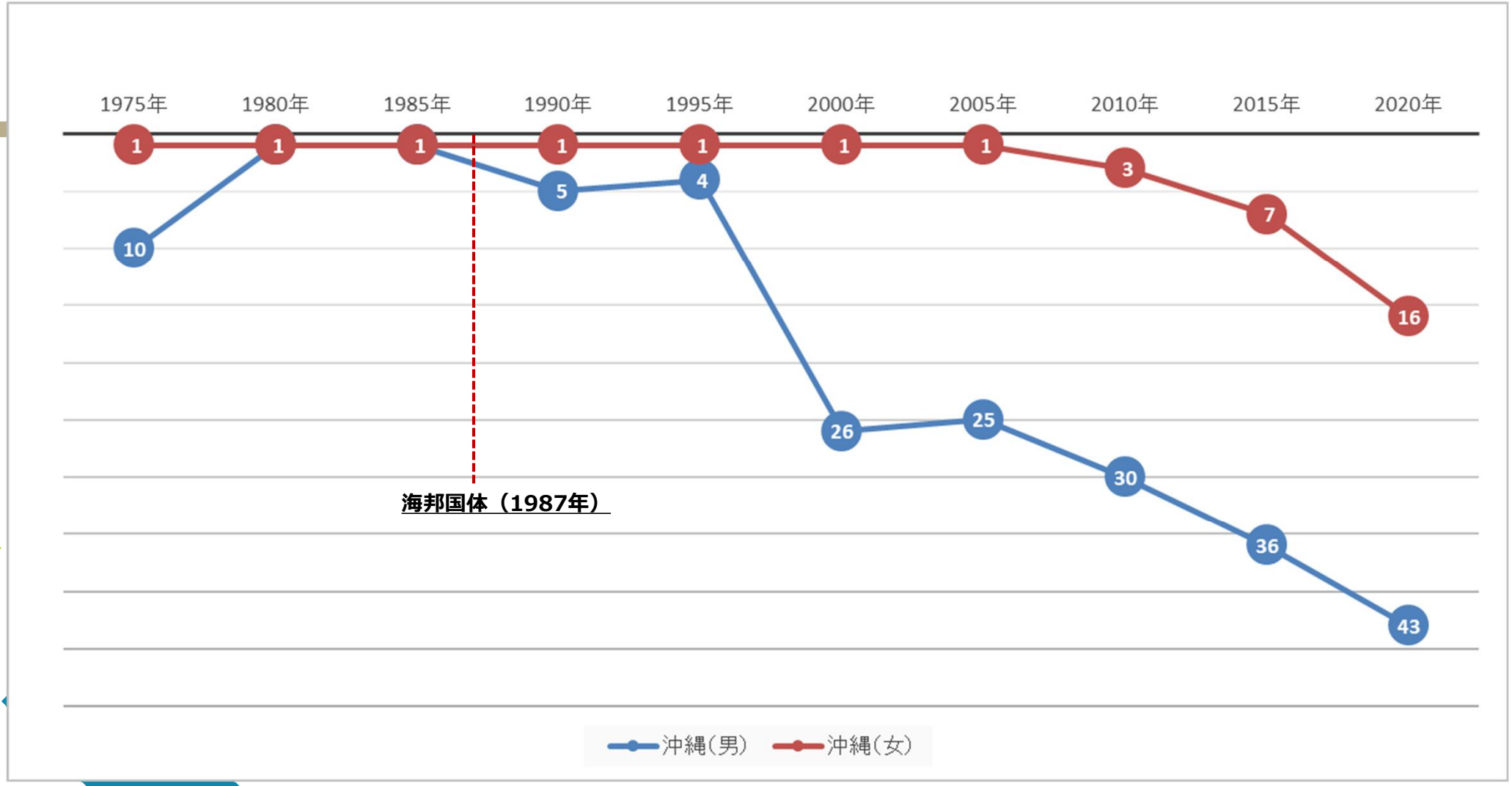
３沖縄県の現状

■社会環境動向①　※人口推移と高齢化率（沖縄県）

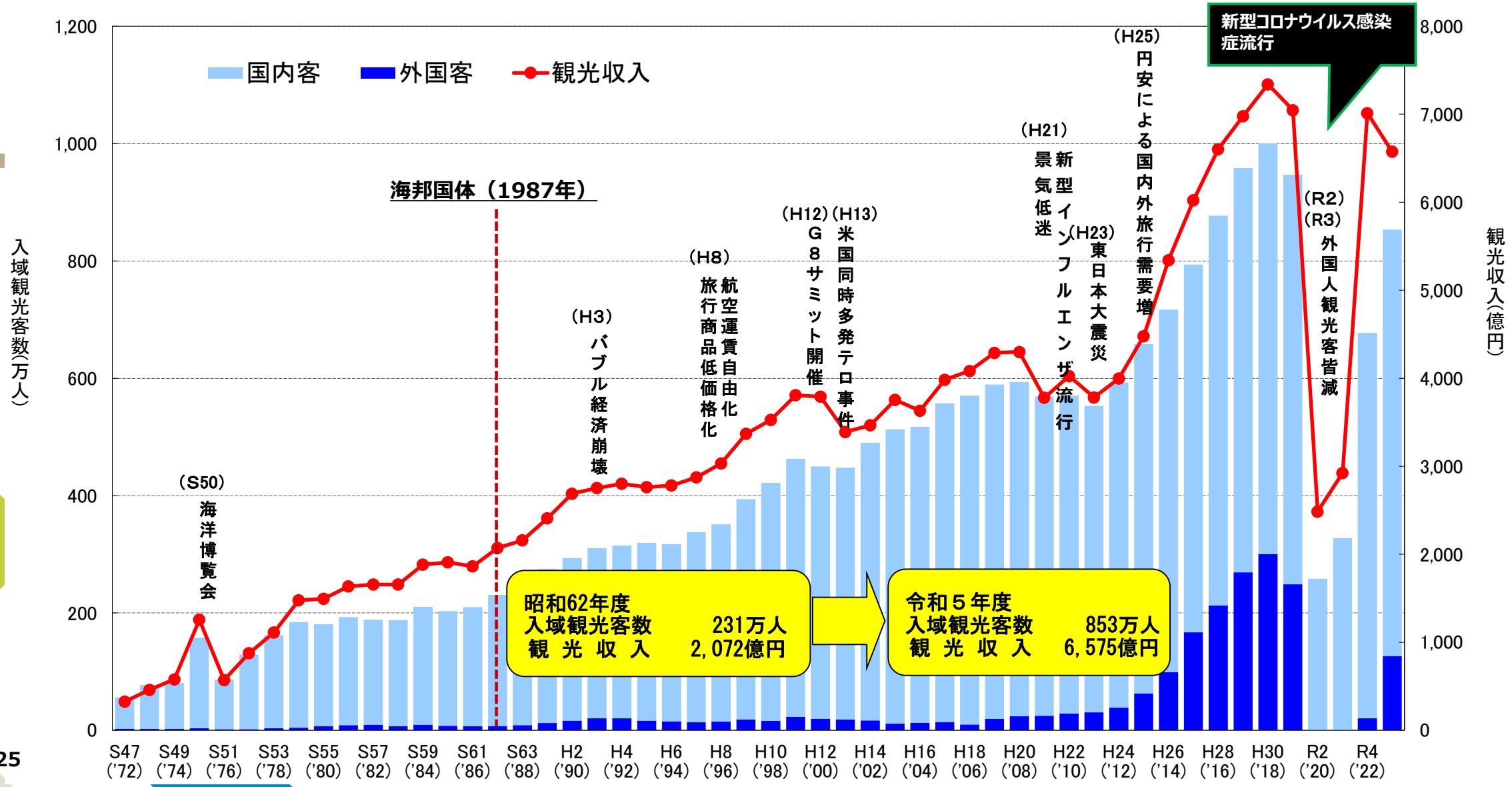


資料：国勢調査結果、国立社会保障･人口問題研究所推計値

■社会環境動向②　※平均寿命推移（沖縄県順位）



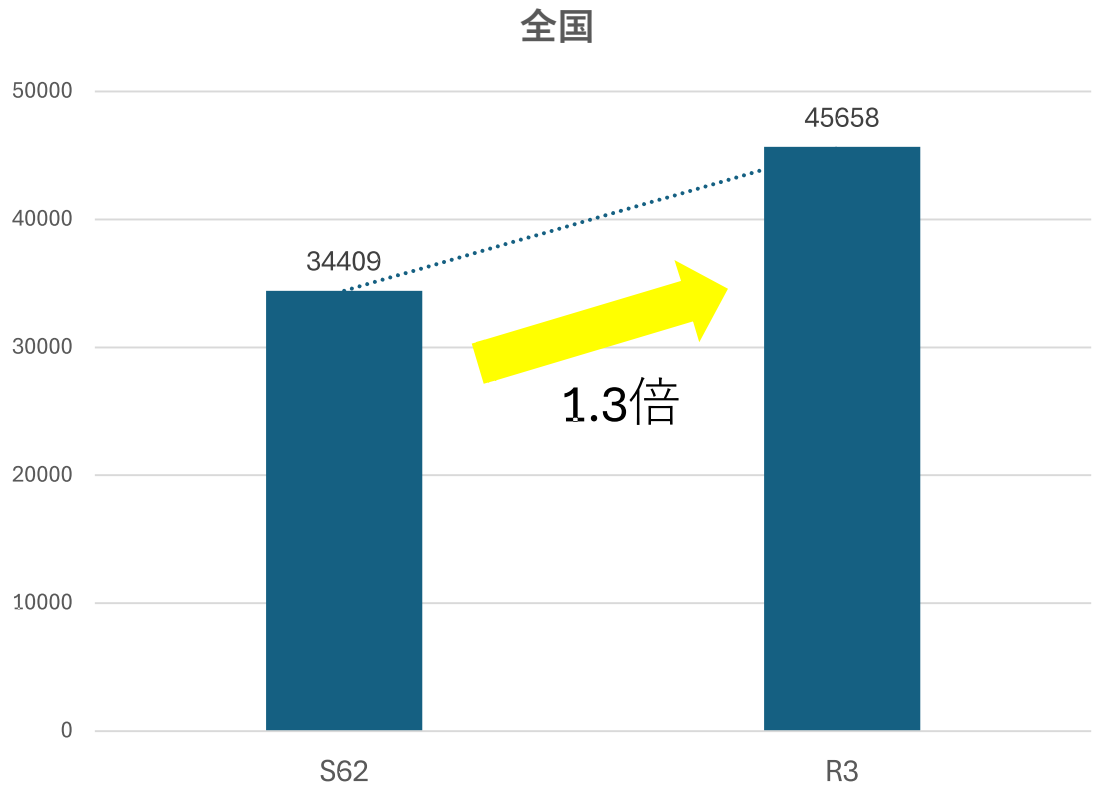
■社会環境動向③　※沖縄観光の動向（観光客数、観光収入の推移）

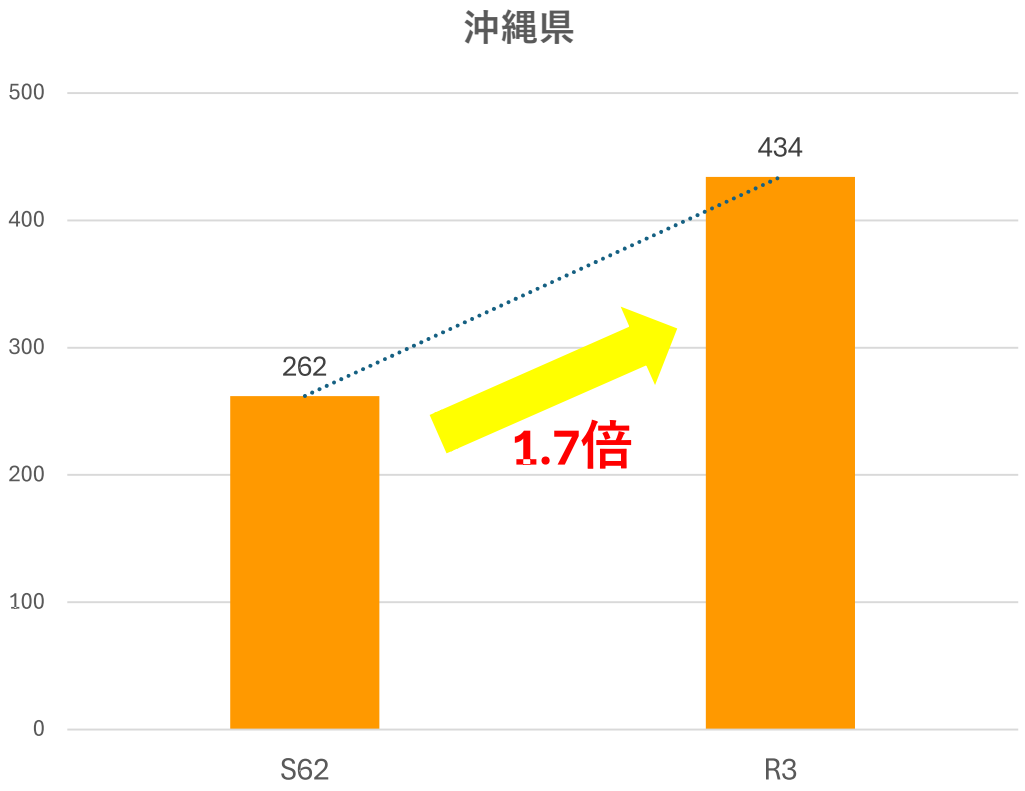


※R5の数値はR6.１～3月を含まない暫定値

■スポーツの環境整備　※社会体育施設の増加

【社会体育施設とは・・・一般の利用に供する目的で地方公共団体が設置した体育館、水泳プール、運動場等のスポーツ施設（青少年教育施設等に附帯する体育施設は対象外）

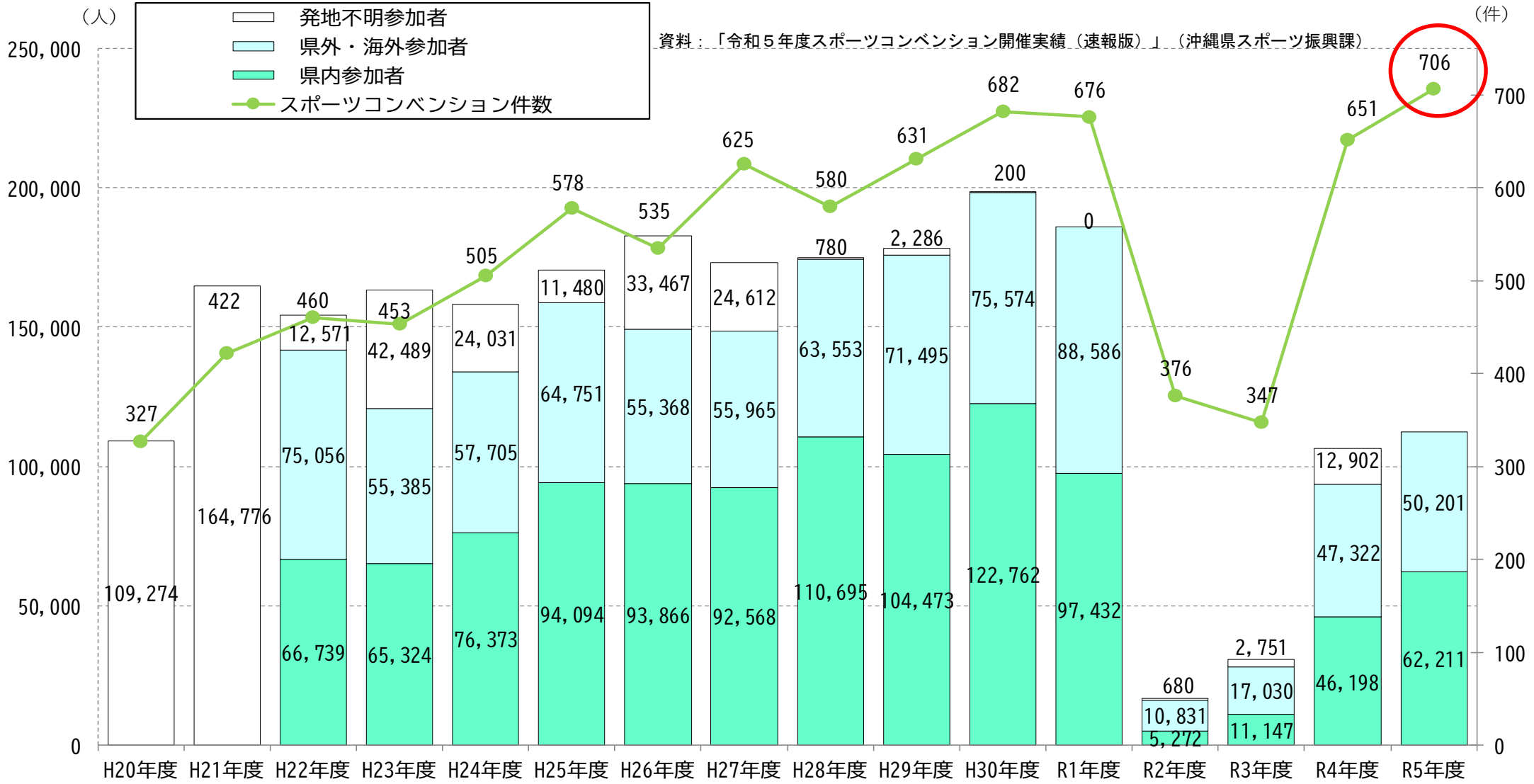




文部科学省「社会教育調査」のデータより作成

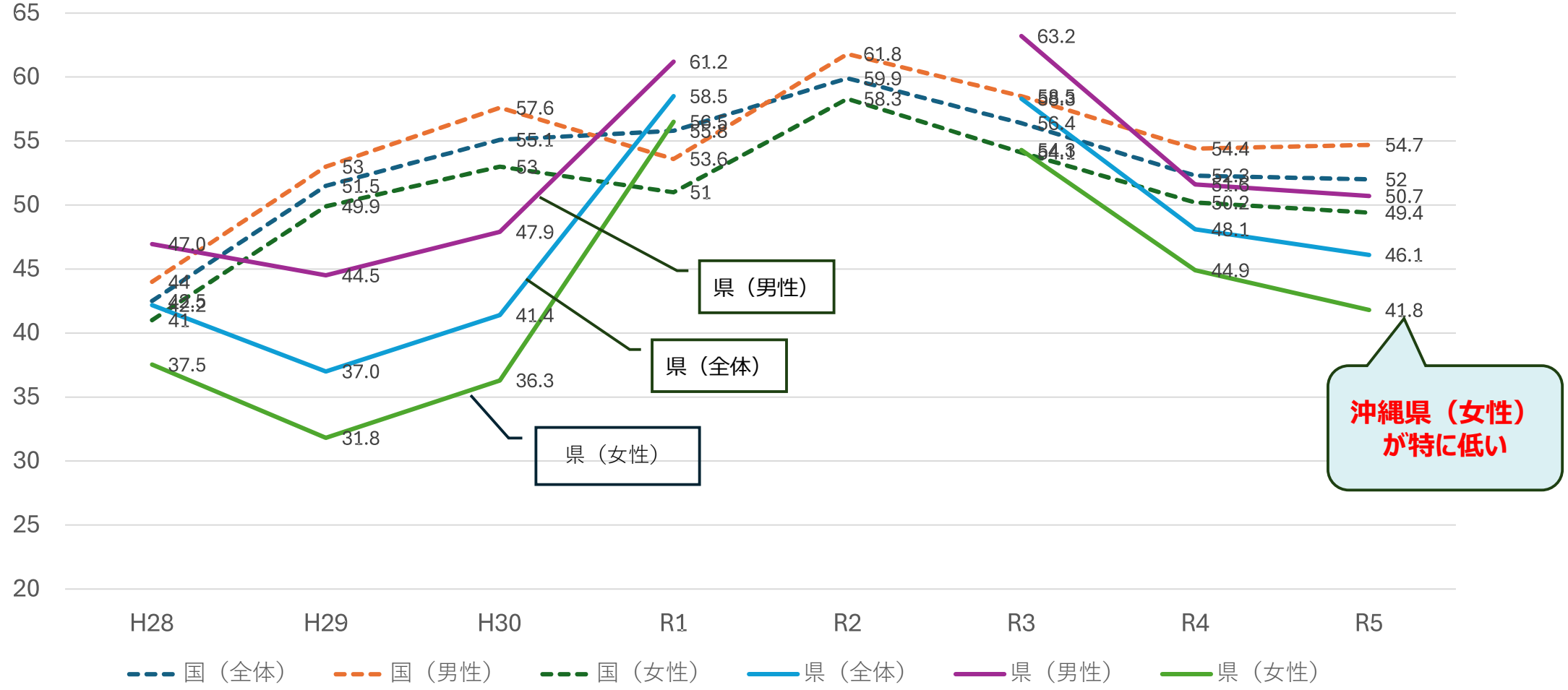
■スポーツコンベンションの推進

【スポーツコンベンションとは…スポーツに関係する合宿、キャンプ、自主トレ、大会、イベントなどの総称】



■県民のスポーツ実施率

【スポーツ実施率とは・・・週1 日以上運動・スポーツをする人の割合】



※県の調査はR１年度から国の調査に合わせて、30分以上という条件を撤廃
R2年度は県の調査未実施となっている。

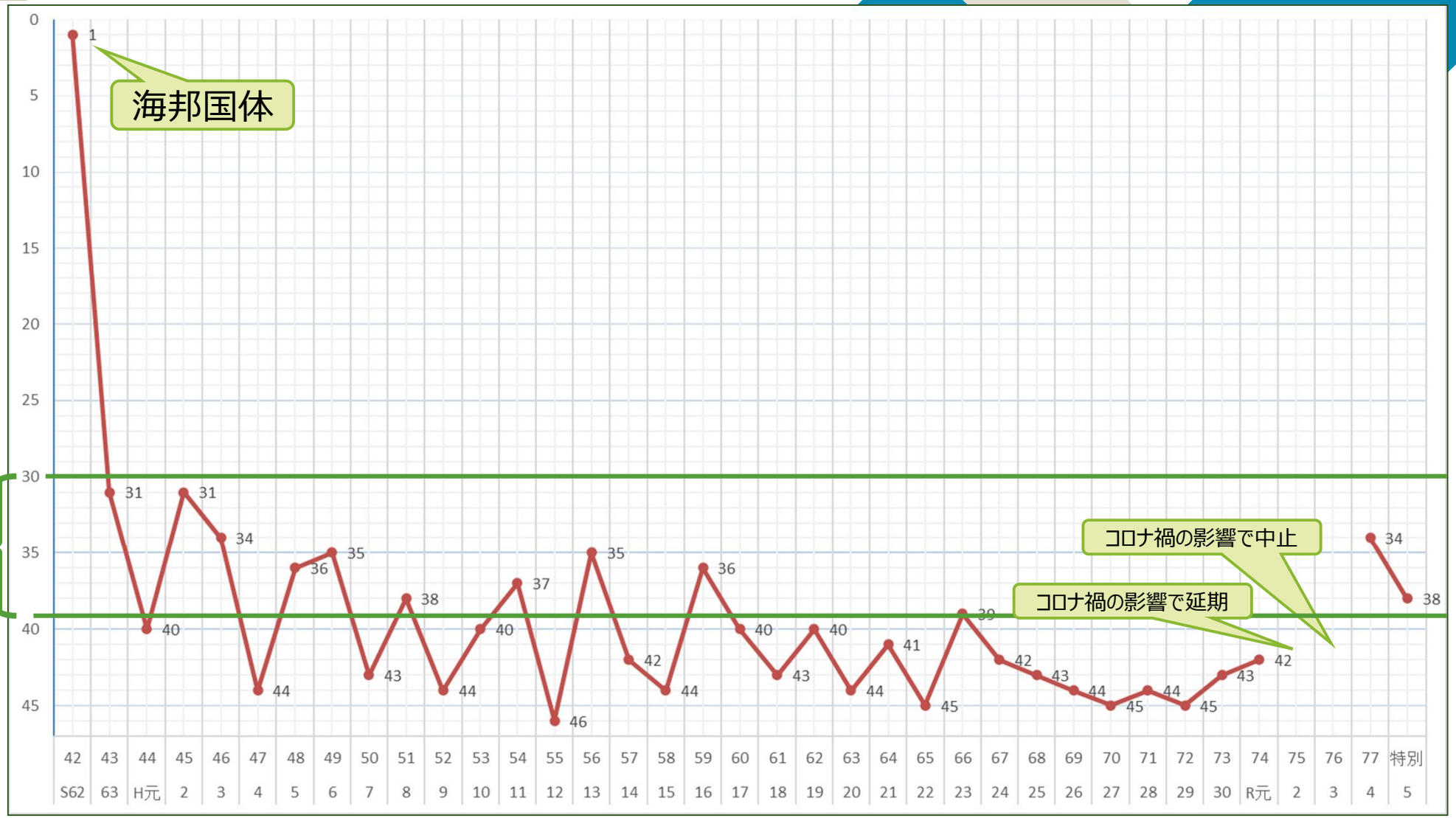
国：スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」
県：沖縄県「県民の体力・スポーツに関する意識調査」

■本県競技力の状況

沖縄県の順位推移

国民体育大会における
沖縄県の順位推移

沖縄県の順位目標
30位台



4 国スポ改革の取組の状況

○経緯

①新しい国民体育大会を求めて　～国体改革2003～　＜平成15（2003）年3月策定＞

「大会の充実・活性化」と「大会運営の簡素・効率化」を二本柱とする今後の国体改革のまとめ

②国体の今後のあり方プロジェクト提言骨子　＜平成19（2007）年3月策定＞

大会規模の見直し、各競技会の開催時期、施設基準の見直し、広域開催等を提言

③21世紀の国体像　～国体ムーブメントの推進～　＜平成25（2013）年3月策定＞

「スポーツ宣言日本」において示された「スポーツの21世紀的価値」を踏まえた新たな国体像として

とりまとめ（国体を通した地域の活性化、国体を通じたスポーツ文化の浸透など）

④３巡目国民スポーツ大会在り方事前検討ワーキンググループの設置（令和元年8月）

３巡目国スポのあり方（果たすべき役割、目指す方向、位置づけ）や今後検討すべき事項の整理等

を主に協議（大会規模の見直し、開催時期・会期の見直し、総合開閉会式の簡素化、大会経費の確保等）

⑤３巡目国スポ在り方検討プロジェクトの設置（令和４年8月）上記④で抽出した検討事項について議論

↓

日本スポーツ協会が検討部会の設置へ→令和６年5月

（出典：公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ）

【２巡目国民スポーツ大会の弾力的な運用に関する開催７県での要請（令和６年６月）】

- 令和11年以降に開催予定の７県（群馬県、島根県、奈良県、山梨県、鳥取県、沖縄県、三重県）で文部科学省及び日本スポーツ協会へ以下のことを要望

１．国スポ３巡目に向けた見直し議論の結果、可能なものは２巡目後半の開催自治体が選択できるように弾力的な運用を。

２．開催時期や施設基準等を開催地域の実情に合わせた運用に緩和し、過大な人的・財政的負担の軽減に配慮。

３．国スポ開催時だけでなく、未来に繋がる競技力向上に向け、各開催県の先行事例を収集し新しいモデルに。

5 大会の意義や目指す成果のイメージ

大会開催の方向性

- ✓ **一過性のスポーツイベントではなく、開催後にも効果が持続すること**
  （３巡目見直しの議論が活発化する中、また沖縄観光が好調な現状において、経費負担に見合った効果があるか、未来に繋がる効果があるのかという視点で方針を定める）

- ✓ **スポーツを通じて社会課題の解決に繋げるなど、スポーツの社会的価値を高める**
  （少子高齢化、健康長寿、共生社会など、社会課題とスポーツをリンクさせることでスポーツの持つ力を広く県民が認識し、参加を促してスポーツ人口を増やす）

- ✓ **県民の幸福度（well-being）や生活の向上に寄与すること**
  （一部の競技関係者だけでなく、できるだけ広く県民が恩恵を受けられる大会）

意義・目指す成果	具体的な内容
生涯を通じたスポーツ文化の浸透と県民の健康長寿を促進	・青少年から高齢者まで幅広い世代においてスポーツが生活文化として地域に根付くこと。 ・県民のアクティブライフの推進、健康長寿の推進に繋げる。
次代を担う子ども達が夢をもって挑戦できる環境づくり	・少子高齢化時代にスポーツ人口を増やす仕組みづくり ・スポーツが持つ根源的な「楽しさ」、「喜び」を全ての子ども達が体感できる環境。 ・能力を存分に発揮し、トップを目指して挑戦できる環境を整える。
「スポーツアイランド沖縄」の魅力を全国に発信	・沖縄の地理的特徴や恵まれた自然・温暖な気候、特色ある地域・文化・産業がスポーツと繋がり新たな魅力を創出する。 ・行政、企業、地域の協働による受入体制を整備し、地域の活性化に繋げる。
ともに支え合う共生社会の実現	・年齢・性別・国籍・障害の有無に関わらずスポーツを楽しめる環境を整える。 ・スポーツを通して互いに理解し支え合う共生社会の実現。
創意工夫による効率的な運営	・既存施設の有効活用　・大会運営の簡素化・効率化 ・地域や企業の参加や連携を深め、創意工夫を凝らした大会

6 意見交換

・大会開催にあたっての所感
・大会開催の意義や目指す成果
・開催にあたっての課題
・今後議論すべき事柄・視点

など、自由にご発言ください。

○参考資料

①新しい国民体育大会を求めて　～国体改革2003～

＜平成15（2003）年3月策定＞

②国体の今後のあり方プロジェクト提言骨子

＜平成19（2007）年3月策定＞

③２１世紀の国体像～国体ムーブメントの推進～

＜平成25（2013）年3月策定＞

④３巡目国民スポーツ大会在り方事前検討ワーキンググループ

＜令和元年8月設置　検討事項整理＞

①新しい国民体育大会を求めて　～国体改革2003～

＜平成15（2003）年3月策定＞

○国民体育大会の果たしてきた意義と役割

１．わが国のスポーツ振興

２．スポーツの社会的地位の向上

３．都道府県のスポーツ施設の整備及び競技団体等スポーツ組織・体制の充実

４．各種指導者の育成と組織の促進

５．郷土意識の高揚による地域の活性化

６．開催地におけるスポーツ文化・教育への貢献

７．開催地のPR及び経済効果への貢献

（出典：公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ）

①新しい国民体育大会を求めて　～国体改革2003～

＜平成15（2003）年3月策定＞

○国民体育大会を　めぐる課題

1．参加人数の拡大による都道府県の負担増

2．競技ルールの変更とそれに対応する施設、整備の適合の困難さ

3．トップアスリート参加の困難さ

4．一過的で過剰な強化策 5．判定・採点等に対する不公平感

○改革の具体的な取組

1．大会の充実・活性化

参加資格の見直し、ふるさと選手制度の導入、予選免除の拡大、公正な判定の徹底等

2．大会運営の簡素・効率化

大会規模の適正化（参加者総数15%（4,500人）削減）、競技会開始式の廃止、近接県の協議施設の活用、企業協賛制度の導入、開催地選定のあり方　等

（出典：公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ）

②国体の今後のあり方プロジェクト提言骨子

＜平成19（2007）年3月策定＞

今後の国体の改革、改善の方向性について、とりまとめたもの

【内容（一部抜粋）】

○大会規模

・大会規模の見直し（各競技会の規模について改めて見直しを行う）

・少年種別の充実（ジュニア層の強化を図る）等

○大会の開催時期・大会の会期（９日間とする）

・各競技会の開催時期（大会会期以外での実施競技数は概ね３競技程度とする）

○各競技の施設等

・国体開催後の利用も視野に入れた競技施設基準の策定等

○開催地の選定

・広域開催（複数の都道府県での施設を利用して開催できることとする）等

（出典：公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ）

③２１世紀の国体像～国体ムーブメントの推進～

＜平成25（2013）年3月策定＞

○２１世紀国体の目指す方向性（コンセプト）

・国体を通した地域の活性化　～「元気な日本社会」の創造～

・国体を通したスポーツ文化の浸透　～スポーツとともにある社会の実現～

・国体を通したアスリートの発掘・育成・強化　～地域から世界へ～

○大会の位置づけ

・各都道府県の郷土を代表する選手が競う国内最大

・最高の総合スポーツ大会・国民のスポーツへの関心やスポーツの文化的価値への認識を高める大会

・将来性豊かなアスリートの発掘・育成・強化を行う大会

○具体的な取組の内容
・「国体ムーブメント」の積極的な展開
・少年種別（ジュニア世代）の充実
・各競技会の実施規模等の見直し　等

○引き続き検討が必要な事項
・表彰制度
・大会名称
・大会開催経費の負担軽減　等

（出典：公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ）

④３巡目国民スポーツ大会在り方事前検討ワーキンググループ

【検討事項（一部抜粋）】

○大会規模

・大会規模の見直し（各競技会の適正規模にて実施できるよう改めて見直し）

○大会の開催時期

・大会の会期（柔軟な会期設定の検討）

・各競技会の開催時期（大会会期内での柔軟な実施や分散開催等の検討）

○総合開閉会式

・実施規模（簡素化）や屋内開催等の検討

○大会経費の確保

・大会参加負担金の適正金額／中央競技団体負担金の導入／入場料金の設定

○開催地の選定

・新たな立候補制の展開（持ち回り開催を廃止、「立候補制」の導入検討）

・広域開催（複数都道府県合同開催やブロック開催のルールや仕組みの検討）　等

（出典：公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ）